

2021年5月6日発行
日本比較文化学会関東支部

2021年度第1号のレター発行となります。本号では、2021年3月28日（日）に東京未来大学にて開催されました「第53回関東支部例会」での支部会員の発表要旨について掲載致します。

また、同支部例会閉会后に2020年度関東支部総会を開催致しました。同総会にて決定いたしました事項も併せてご報告申し上げます。

日本比較文化学会関東支部事務局長 郭 潔蓉

◆第53回 関東支部例会 ご報告◆

2021年3月28日(日)、東京未来大学・遠隔会議室 (zoom) において第53回関東支部例会が開催されました。当日は5組の支部会員による研究発表が行われました。各発表において積極的な意見交換がなされ、大変有意義な合同例会となりました。以下、例会での会員の研究発表の要旨を掲載致します。

◆開会の挨拶： 関東支部 支部長 近藤俊明（東京未来大学）

◆研究発表：

1. 印象評価のための印象語収集ツールの開発

— 印象語調査と印象語データベースの構築 —

高木亜有子 湘北短期大学 准教授
森崎 巧一 京都経済短期大学 教授
小路真木子 京都経済短期大学 教授
郭 潔蓉 東京未来大学 教授

商品開発やデザイン等の分析において、人間がものやことに対してどのような印象を抱くのかアンケート調査するケースがある。このような調査は「印象評価」と呼ばれ、形容詞を使って被験者の感じた印象に対して点数付けを行う。例えば、あるデザイン作品を見て温かい感じがするか、冷たい感じがするか等を質問し、作品から受ける印象の程度を数段階の評価により回答してもらう。このアンケートに使われる形容詞は、一般に「印象語」と呼ばれている。印象調査において、どのような印象語を選定するかは大変重要であり、予備調査として印象語を厳選するためのアンケートを実施する。

本研究は、「印象評価と画像解析を用いた異文化感性理解支援ツールの開発 (JSPS 科研費 (19K03101))」の一環として、印象評価における印象語の選定のための印象語収集ツールを開発した。このツールはWebアンケートとして実装し、PC・スマートフォンのどちらからでも印象語を複数回答することができる。開発にはPHPとMySQLを活用し、回答結果をデータベースで保存している。アンケート作成者は管理画面より、データの集計やダウンロード等が可能である。本研究では、日本の大衆文化コンテンツを分析するため、漫画・アニメを対象とした印象語を本ツールによって収集した。主に大学生を被験者とし、好きな漫画・アニメのキャラクターを挙げてもらい、そのキャラクターに対する印象語を複数挙げてもらった。その結果、回答数は約400件、キャラクター約200人に対する回答を収集することができ、約

500種類の印象語を得た。回答結果にはその時の流行の傾向が見られ、印象語にも偏りがあることがわかった。より多くの印象語を収集するためには、被験者の幅を拡張することが必要である。また、回答結果には印象語の表記ゆれが存在し、同じ意味の印象語の統合処理は今後の課題である。

2. 『鬼滅の刃』のメディア効果

— 自己犠牲規範, ジェンダー役割規範, 逸脱回避性向などとの関連 —

前田 悟志 中央大学 兼任講師

2020年には社会現象とまで言われるほどに人気を博した『鬼滅の刃』シリーズ（マンガ、アニメ、映画）は、どのような人々に鑑賞され、また好感をもって受け入れられたのかを考察する。分析は2021年2月上旬に行ったオンラインでのサーベイ調査のデータセット（対象は首都圏、1103サンプル）を用いた統計的手法による。

同シリーズのナラティブにはいくつかの点においてやや保守的なメッセージ性が散見され（例えば、主人公が旭日旗に似せた耳飾りをしていることが物議をよんでいるように）るため、本調査ではメディア効果の一つとしてオーディエンスの価値観になんらかの影響を与えている可能性を検討した。いくつかの保守的価値観と関連のある変数への回答者の反応の程度を、同シリーズへの接触経験（視聴あるいは読経験）があるグループと未接触のグループで比較したところ有意な差が確認され、視聴読経験のある人々は保守的価値観により近接した態度を示していた。続いて、接触経験ではなく同シリーズに対する好感度についての分析を行い、上記の保守的価値観の設問群との関連を確認したところ、こちらでは一部でのみ正の相関が確認された。

この他には、多くの変数を含めたステップワイズ法による重回帰分析により、好感度の高さに寄与している回答者の特徴を探索的にいくつか導いた。新製品の購入に関心が高い人々、主観的幸福感の高い人々、身体能力の向上に関心のある人々のあいだで好感度が高かった。一方で高価でもブランド商品・有名メーカー製品の購入に関心が高い人々は好感していないという結果となった。

3. 黒沢寿任訳・加爾均氏著『庶物指教』における「罫画論」

— 「学制」成立時の「罫画」科目に対する教育関係者の戸惑いと文部省の志向 —

向野 康江 東北大学大学院 院生・茨城大学 教授

明治5年（1872）の「学制」に登場した「罫画」科目の内容は、「小学教則」に略述されるものの、明確には確認できていない。「罫画」の設定にはやや複雑な経緯があり、さらに地方では、学校制度の整備に向けた動きのなかで、「罫画」をどのように扱うかは、悩ましい問題の一つであったため、多様な構想に基づく罫画書の刊行されることとなった。

それらの書には、人々の「罫画」に対する戸惑いの様相も現れていた。明治8年（1875）出版の内藤類次郎〔訳述〕『罫画法 小学之部』上篇には、「我邦従来罫画ノ書ナキヲ以テ…未タ其何物タルヲ知ラザル者多シ」と記されていたし、明治10年（1877）の城谷謙〔纂輯〕『小学教則幾何画学』上巻／下巻の「緒言」には、「我邦、従来罫画ノ書ナキヲ以テ」と記されていた。つまり、一般の人々には「罫画」というものが何なのかわからなかったらしい。

このような状況を、文部省側がどのように捉えていたかを明示する史料は、今のところ確認できていない。しかし、明治10年（1877）5月に文部省は、黒沢寿任訳、加爾均氏『庶物指教』上下（文部省印行）を刊行して「罫画」の大枠を示している。

「加爾均（カルキン）」とは、ノーマン・アリソン・カルキンス（Norman Allison Calkins, 1822. 9. 9-1895. 12. 22）のことである。本書は、『プライマリー オブジェクト レッソン（Primary Object Lesson）』

の翻訳書であった。その下巻に「罫画論」の項目がある。そこでは「罫画論」は「drawing」となっていた。

「罫画論」の内容は、可能な限り現実的で基礎的な内容であった。習字と併せて行うことを避け、紙と鉛筆を用いずに「石板ト石筆」を基本としていた。「罫画法」に至る前段階としての図を引く訓練として、「手指」と「眼力」の一定程度の熟練をも求めている。これは何を意味するのか。

本発表では、文部省が、黒沢訳の『庶物指教』を通して、当時の人々が戸惑っていた「罫画」をどのように認識していたのか、罫画教育において何を志向していたのかを明確にしていきたい。

4. 日韓英3か国の「公共メディア」にみる北朝鮮向け情報発信の方向性

田中 則広 淑徳大学 准教授

北朝鮮＝朝鮮民主主義人民共和国の動向を国際社会が注視するなか、北朝鮮に向けて情報を発信し続けることで内部からの変化を促そうと、各国の公共メディアによる試行錯誤が続いている。

本研究発表では、北朝鮮国内を聴取対象に含む、中波・短波によるラジオ国際放送のうち、世界の主要な公共メディア（NHK[日本]、KBS[韓国]、BBC[英国]）が実施するコリアン・サービス（韓国語放送、朝鮮語放送）を取り上げ、それぞれの特徴について報告する。

3つの公共メディアのコリアン・サービスについて、沿革と実施体制、基本編成と主要番組、ニュース分析を基に検討した結果、半世紀を優に超える長い歴史があるNHKとKBSの場合においては、NHKが日本の現状や重要政策を正確に伝えるとともに、国際交流の促進を図るなどとした役割に大きな変化はなく、比較的安定的に運営されてきたのに対して、KBSは南北朝鮮の政治情勢に翻弄されながら、時期ごとに求められる役割の変化を余儀なくされてきたことが明らかになった。また、海外向け放送の開始から85年の年月を経て、ようやく2017年にコリアン・サービスをスタートさせたBBCからは、世界の民主主義を守るべく、北朝鮮に対しても正確で公正で独立したニュースの提供を試みる姿が浮かび上がった。

5. 民俗芸能における跛行・聖数・聖痕のモチーフ

—世界民俗芸能比較論の構造主義的継承—

川崎 瑞穂 神戸大学 日本学術振興会特別研究員

文化人類学者クロード・レヴィ＝ストロースは『神話論理』の中で、世界各地の儀礼や神話における「跛行」に注目しており、その中で古代中国の「禹歩」にも言及している。禹歩やそれに淵源する反閉といった「マジカルステップ」（五来重）は、発表者が研究している日本各地の民俗芸能にも名残があるが、レヴィ＝ストロースが「跛行」の「構造的」な意味を「不均衡」と表現していることは、民俗芸能の分析においても示唆に富む。

民俗芸能のジャンルの一つである「神楽」を例に挙げれば、先行研究において神楽の囃子（音楽）に数字的な象徴性（聖数）があることが指摘されているが、この象徴性は「均衡／不均衡」という対立によっても解釈可能である。神楽囃子が数によって様々な「意味」を描き出すとき、音はいわば「聖なるもの」を「数」によって「差異化」しているわけだが、これを小松和彦に倣って「記号」としての「聖痕」（スティグマ）と言い換えてもよいだろう。

民俗芸能研究者の星野紘は「世界民俗芸能比較論」（2008）を唱えているが、本発表では、レヴィ＝ストロースや星野に倣って、時間／空間の大きな跳躍を行ない、民俗芸能における跛行・聖数・聖痕の意味について考えてみたい。

◆閉会の挨拶： 関東支部 副支部長 高橋 強（東海大学）

*閉会后、2020年度関東支部総会を開催した。

◆2020年度 関東支部総会 ご報告◆

- (1) 議長選出
満場一致にて、関東支部編集委員 金塚 基（東京未来大学）が議長に選任された。
- (2) 総会開会の辞 議長 金塚 基（東京未来大学）
- (3) 2020年度会計報告 関東支部事務局長 郭 潔蓉（東京未来大学）
 - ・事務局より2020年度の会計報告がなされ、東本裕子会計監事の監査により内容に関して相違ないとの報告がなされた。
 - ・会計報告の詳細は、後日学会HPに掲載予定。
- (4) 2021年度人事案 関東支部長 近藤 俊明（東京未来大学）
 - ・2020年度は、コロナ感染の影響により2019年度の役員人事を改選しなかったが、2021年度も全国大会を控えているため、2020年度の役員人事を踏襲することが確認された。
- (5) 2021年度活動計画 関東支部長 近藤 俊明（東京未来大学）
 - ・近藤俊明支部長より、以下の通り2021年度の活動計画が提案され、満場一致にて賛成が得られた。
 - 2021年9月19日(日)：第43年全国大会（関東支部・運営担当）
 - 2021年12月：第54回関東支部例会（予定）
 - 2022年3月：第55回関東支部例会・2021年度関東支部総会（予定）
- (6) 第43回全国大会・2021年度国際学術大会 関東支部長 近藤 俊明（東京未来大学）
 - ・近藤俊明支部長より事務局に2021年9月19日(日)に予定されている第43回全国大会・2021年度国際学術大会についての説明をするよう指示がなされた。
 - ・事務局（郭 潔蓉・東京未来大学）より、大会の運営体制、運営委員会組織と構成メンバー、並びに運営の進捗状況に関する報告がなされた。
 - ・質疑応答により、会員からの活発な意見や質問を得ることが出来た。
- (7) 総会閉会の辞 議長 金塚 基（東京未来大学）